



若

者

それが問題だ

奥

俊

信*

住宅の入口を入った所の小さいスペースのことを玄関ホールと呼んでいる。ホールというのはいかにも大袈裟な呼び方ですが、16世紀の末までイギリスではマナー・ハウスと呼ばれた大地主の邸宅のホールは、その名にふさわしく大教会の内部のように立派でした。現代に近づくにしたがいホールは縮小しましたが、名称だけが残ったわけです。

16世紀末のイギリスはエリザベスⅠ世（在位1558—1603）の時代で国力が増強した時代でした。シェークスピア（1564—1616）が活躍したのもこのころです。

あるシェークスピアの研究者から次のような相談を受けたことがあります。まず図1を見て下さい。これは当時の劇場、幸運座というのだそうですが、その劇場の平面図です。劇場の外

壁の長さ80 ft、内壁の長さ55 ft、舞台幅43 ft、舞台奥行き27.5 ftあります。

さて、相談というのは、この劇場が図2、図3、どちらの作図法に基づいたものかということです。図2は円に内接する正三角形を4個、30度ずつ回転させたものです。図には、この幾何図形を基準にして設計した場合の仮想の劇場を破線で示しています。図3は円に内接する正方形を描き、次にその正方形に内接する円を描く、といった操作を繰り返していったものです。図には仮想の劇場をやはり破線で示しました。どうでしょうか。どちらの方が図1に近いでしょうか、どちらも図1によく似ているように見えます。

そこで、図1、つまり実際の劇場の平面図を図2、図3の上に重ね合わせてみることにします。図を重ね合わせる場合、図の一部分のサイズをそろえる必要があります。ここでは外壁の

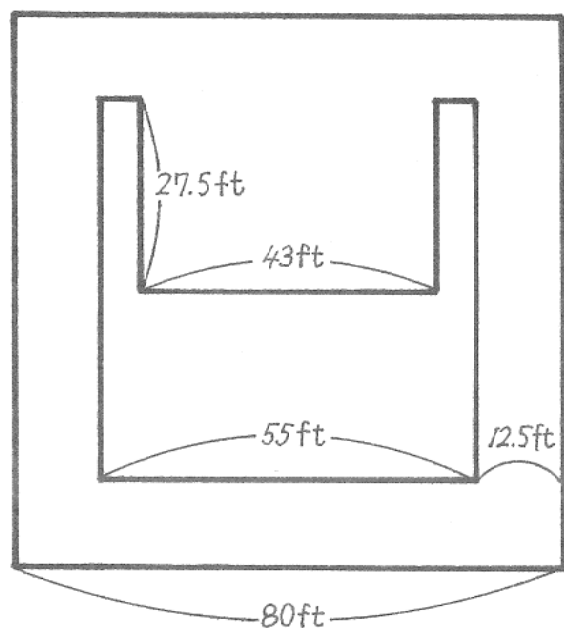


図 1

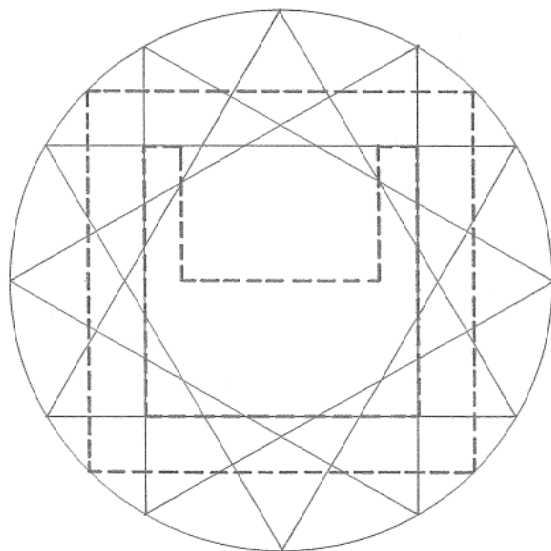


図 2

*奥俊信（Toshinobu OKU），大阪大学，工学部，建築工学科，助手，都市計画

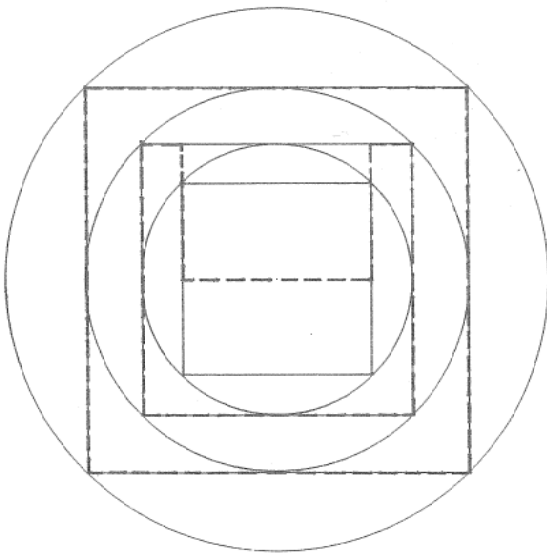


図 3

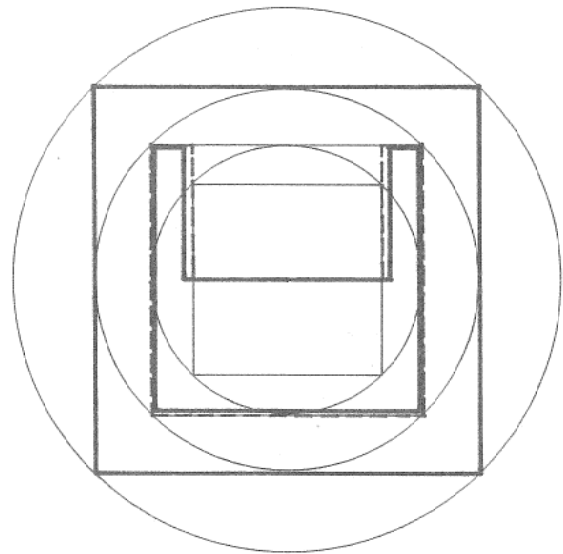


図 5

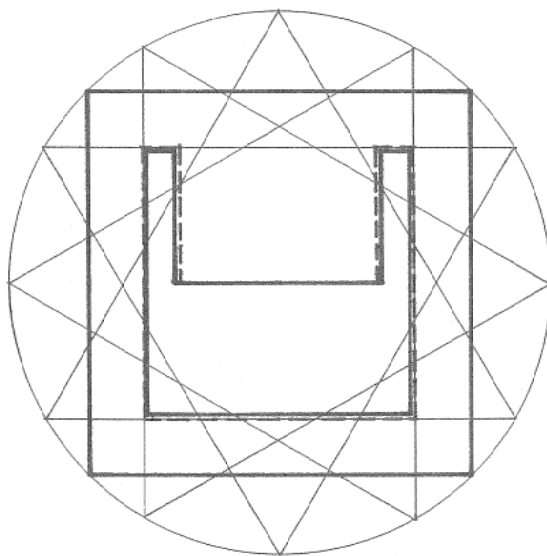


図 4

長さ80 ftをそろえてみました。

図4, 図5がそれです。太い実線が実際の劇場で、破線が仮想の劇場です。

いかがでしょうか。両図とも劇場の内壁と舞台奥行きズレはほとんど目立ちません。舞台幅に少し目出た誤差があるようです。図5の方が図4よりもズレが大きそうですが、作図

の誤差もかなりあるようです。作図からは、どちらの図がより実際の劇場の平面図に近いかを判断することはむずかしいようです。

そこで、計算によって誤差を求めることにします。外壁の長さ80 ftについては、この外壁長さをそろえて重ね合わせたのですから、誤差は0です。

内壁の55 ftに対して

図4では56.6 ftになり誤差1.6 ft.

図5では56.6 ftになり誤差1.6 ft.

舞台幅43 ftに対して

図4では41.4 ftになり誤差1.6 ft.

図5では40.0 ftになり誤差3.0 ft.

舞台奥行き27.5 ftに対して

図4では28.3 ftになり誤差0.8 ft.

図5では28.3 ftになり誤差0.8 ft.

以上の計算結果を見ますと、内壁と舞台奥行きについては、両図の誤差は同じで、舞台幅についてのみ誤差の大きさに差がついて、図5の方が誤差が大きいことがわかりました。従いまして、図4の方が実際の劇場に近いということになります。

エリザベス朝の劇場は図4の作図法で設計されたと結論できるでしょうか。ちょっとそれはむずかしいように思えます。というのは、図4

にも誤差がありましたし、図5の作図法よりも誤差が少なかったといっても舞台幅だけのことで、内壁長さと舞台奥行きについては同じ誤差でした。図5に対して決定的に有利なわけではありません。断言はむずかしいようです。

ところで、さきほどのシェークスピアの研究者はどうして2つの作図法のことを問題にしたのでしょうか。イギリスの16世紀末、エリザベス朝は建築史の年表によりますと中世とルネサンスとの間、過渡期ということになっています。中世の終わり、もしくはルネサンスの始めともいえます。

シェークスピアの研究においては、この時期が中世に属するのか（たとえ終わりの部分であろうとも）、ルネサンスに属するのか（たとえ始めの部分であろうとも）、重要なことなのだ

そうです。中世はイギリス在来の文化的伝統を引継いでいますが、ルネサンスはイタリアに始まる大陸の外来文化の移入になります。このことは大きな違いといえます。

そのどちらであるかを決める1つの指標が劇場の作図法だったわけです。図2はウィトルウィウスの図形と呼ばれ、ルネサンスの方法。図3はさお尺を使った三角測量のやり方で、中世の方法です。

中世かルネサンスか、それが問題でした。

参考文献

- 1) 英国建築物語ヒュー・ブラウン 小野悦子訳
晶文社 1980.
- 2) 女王陛下の興行師たち 玉泉八州男
芸立出版 1984.

